

令和4年度（2022年度）交付分 とよなか夢基金助成金事業報告会

日 時 令和5年（2023年）7月1日（土）13時～16時30分
会 場 豊中市立市民公益活動支援センター（庄内コラボセンター「ショコラ」1階）
進 行 各団体による報告6分、コーディネーターからのコメント3分、入替1分（計10分）
出席者 コーディネーター 市民公益活動推進委員会 助成金審査部会
部会長 山田裕子さん
報告団体 18団体 23人
一般参加 18人（会場10人、オンライン8人）



■コーディネーター挨拶

発表団体の方には審査の際に厳しいことを提言している。

今日はそういう意味で報告をお聞きしながら、審査の際に提言したことを活かして頂けているかな、それ以上にすごい成果を出して頂けているかなと楽しみにしながらお聞きしたいと思う。審査は公益性を始め、いくつかの審査基準で審査させて頂いている。その中で公開性も入っている。今回の報告会もその一つだと捉えていただければありがたい。



私が部会長として、審査部会を代表して皆さんの話をいろいろ聞かせて頂くが、他の審査員もどのように成果を上げてこられているのか楽しみにしている。次回の助成金審査部会に皆さんの報告、成果を伝えたいと思う。長時間になりますが、よろしく願い致します。

■団体の報告

当日の質疑やコメントを事務局にてまとめたものです。団体によって質疑の有無等が異なりますが、ご了承ください。

第1部

1. ニコフル

初動支援コース【とよなかニコフル新聞の発行】

事業概要

豊中に住む小学生と豊中市内について実際に現地に行って調べ、インタビューを行い、聞いたことをまとめて新聞にする。その新聞を地域の人に発行し、地域交流・多世代交流をめざす。

メディアであることから、引き続き、正確な情報発信を心掛けられたい。また、活動経費については市の助成金だけではなく、参加費、広告費を活用し、継続的に活動していただきたい。



2. 分かち合いの会・ひかり

初動支援コース【自死遺族の心の傘に一大切な人との別れを体験した者が向き合う】

事業概要

自死の実態を知ってもらい、差別・偏見を無くし、自死遺族が元気で社会参画できるようになることを目的に、ルポライター杉山春講演会「自死は向き合える。」を実施する。

マスコミに取り上げられる等、池田から始めた活動が広い展開になっていると毎回発表を聞くとび感じている。

グリーンケアという考え方で主流になっているのが「継続する絆」理論。最初は発信が少なかったが、個々に非常に努力され、いい方向に活動が広がっている。自死のない社会をめざすのが大切であり、分かち合いの会・ひかりさんの活動が必要になってくる。



3. おやこスペース つなぐ

初動支援コース【おやこスペース つなぐ】

事業概要

産前産後のママたちが楽しく育児を行えるように、赤ちゃんが泣いても気にせずいられる場所、ワークショップやセミナーを通じて育児以外に一瞬でも意識を向けられる、ほかの誰かと話せる、ホッとできる場所を提供する。

ふらっと気軽に立ち寄れるハードルの低さは大切だと思う。自分が救われた方が運営スタッフにまわる等、いい循環ができればよい。頻度を高く、他のスタッフが運営できると、「つなぐ」の意味が大きくなると思う。コロナがきっかけで「つなぐ」を始められた。継続性がないと社会的効果が薄れていく。他の団体とのコラボや、助けて頂ける方に応援してもらいながら連携して続けてほしい。



4. 一般社団法人ハンドメイドキャンドル協会

初動支援コース【世界に1つだけのアロマキャンドルを作って灯そう！！】

事業概要

障害がある方、ひきこもりの方、生きづらさを感じている方に、キャンドル作りを通し自己肯定感を育み、キャンドル作成イベントによって、たくさんの方との一体感を感じていただき、社会につながる喜びを感じてもらう。

この助成金事業は非営利団体だけではなく公益活動がされているところであれば、企業形態でも出してもらえ



る。こちらの団体は一般法人型で社会的課題の解決をしている事例である。生きづらさを感じている方自身が作ったものが販売され、その先の価値になっているのであれば広がりを感じられる。計画ではそこが読みこめなかったが、今日伺ったら波及効果が出ていて素晴らしいと思った。引き続きカフェをうまく経営し、収益が上がるよう頑張ってもらいたい。

5. 特定非営利活動法人いきいきライフ協会

初動支援【みんなあつまれ！いきいき看護週間イベント】

事業概要

千里文化センター「コラボ」多目的スペースにて、子ども向けのお楽しみや、看護師とのふれあい、学びの時間の提供。高齢者向けには健康相談や昔遊びなどのコーナーを設け、看護や介護の相談窓口として関連機関へつなぐ。全て参加費無料で行う。

世代間交流という意味で良いイベントである。また、看護と介護の活動現場であるグループホーム内で、地域の住民も交流されていることはとても良い。今後も活動を広げていきながら、他地域でも実施できるようノウハウを伝えて欲しい。



6. 庄内はてんこもり

初動支援コース【庄内はてんこもり『みんなで学校ごっこ・防災まちづくり』】

事業概要

地域の誰もが参加できる地域の子どもの学校を開校。年齢問わず誰でもがセンセイとなり、歴史、伝承、仕事や趣味等の授業を行う。防災まちづくりでは、防災まちあるき・防災デイキャンプ・消防署での応急手当等を行う。

先生とスタッフが参加者よりも多いとあり、これがよい。みんなで学校ごっこの成果だと思う。地域の担い手を育てる、コミュニティ作りをめざしているという進め方が分かった。昔は地域活動といえばキーパーソンと言っていたが、今は地域のコーディネーターがいて、ファシリテーター的な動きをする人がいて地域のコミュニティが成り立つ。継続して頑張ってもらいたい。



7. 特定非営利活動法人 メッセージ

初動支援コース【チャイルドリーム・ネット】

事業概要

トップアスリートの高校生を中心に小学生に対し直接コーチングをしてもらい、小学生には夢や憧れ、高校生には感謝や誇りを感じて欲しい。

夢基金の事業申請書を越えた大きな報告。仕組みとしてこの事業は出来上がっている。豊中からは別の形で応援できると思う。夢基金は資金だけの問題ではない。他に広げていってほしい。豊中が団体の発祥の地であることを忘れないで、この事業を是非いろいろな課題解決に繋げてほしい。



8. NPO 法人日本学び協会

初動支援コース【就労移行支援で行う野菜の移動販売店 たまねぎ屋 まるわ】

事業報告

社会復帰をめざす障害者とともに栽培した玉ねぎをワンモア豊中の訓練の一環として販売し、活動地域である豊中の利便性向上に貢献する。

当初の目標である買い物が難しい地域で移動販売が実現されてこそ、障害者の力を知ってもらい、地域との共生でwin-winの関係が生まれてくるが、現時点においては、方向性がそこまで至っていない。ぜひ、移動販売をしてほしいと思う。また、雇っていただける店、企業もあると思う。開拓していることをPRしてほしい。



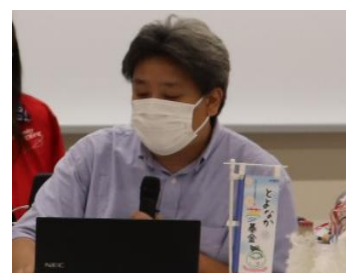
9. 科学教室ボランティア ライフサイエンス部会

初動支援コース【科学教室のバイオサイエンスへの展開と教材の開発による普及事業】

事業概要

本申込事業では、科学教室において「科学のすばらしさを子どもたちの手のひらの中に届ける」視点での新しいバイオサイエンス分野の教育プログラムや教材の開発を行い、その実施を行って、その効果や将来性を検証します。

子どものほうがSDGsをよく知っている。アップサイクルみたいなものができるということが分かって子どもが科学に対して興味を持つ方法だと思った。豊中でも『さをり織り』をしている所がある。思ってもみなかった方向性へ行っているが、市民公益活動の発展系の姿かと思う。広げていただければと思う。



10. あいあい～愛逢RADYONE

初動支援コース【うさみみ活動☆多世代交流】

事業概要

豊中市民ひとりひとりに寄り添い、マルシェやフリマ、ワークイベントを通して楽しみながら学びになり、生活に活かす事ができるような多世代交流の場所をつくる。

女性で一番ボランティア活動をしているのは35～39歳。子育て、仕事を両立し、ボランティア活動をし、すごくパワフルである。あいあいさんの話を聞いているとそれを思い出した。一緒に動ける仲間が必要など言い続けるパワーが大切。



11. えほんのおうちゆめのき文庫

初動支援コース【「ありがとう」と「笑顔」を広げる絵本の日 ゆめのきフェスタ】

事業概要

命・多様性・平和の大切さを共有する絵本の読み聞かせを行う。また絵本作家との交流、司書による図書紹介、保育教諭による子育て相談、こどもの遊び場などのコーナーを設置し、親子で楽しめるフェスタとする。

フェスタが終わってから日常にその思いを掘り下げていくための仕掛けが必要。命、多様性、平和の大切さ等、皆が共感し、孤立防止に繋げることが大事だと思う。そのことが伝わるようなフェスタにしてほしい。



12. 阪大寺子屋

初動支援コース【阪大寺子屋】

事業概要

阪大生によるオンライン授業を、塾に行きたくても行けなかった生徒に向けて圧倒的低価格で提供します。講師は阪大医学部主席合格者をはじめとする精鋭揃いで、生徒に楽しい勉強の時間を提供し、勉強の習慣化を図る。

メディアに取り上げられたことで、大阪府内外から受講生700名以上参加があった。現在は運営者側の事情で休止中。このような活動は必要とされていると思う。今回、報告会に出席できなかったことは残念であった。

13. 食と音のコラボラボ

初動支援コース【トヨビア～コロナ禍における新たな音楽イベントのありかた～】

事業概要

コロナ感染対策を講じた音楽アーティストによるライブと参加者からのリクエストによる BGM を流す音楽フェスタ。おいしいお食事とお飲み物などと共にやんわり音楽を楽しめる場を提供し、文化・経済的に活性化させ、元気で豊かな地域を育む。

地域の方々に音楽の楽しみを広げていくのが本来の目的と思っている。コロナ禍で飲食店も大変であり、消費を進めていくということだが、本来は新たな音楽の楽しみ方に触れる機会を提供する目的を持っていたのではないかと思う。“トヨビア”はイベントをきっかけに、まちづくりを進めていくものと考えている。そういうふうにビジョンを描いていってほしい。



14. 場づくりカレッジ「えすけーぷ。」

初動支援コース【「生きづらさ」で対話する居場所開設事業】

事業概要

「生きづらさ」の当事者に、いいことも悪いことも、自分の今感じている気持ちを安心して表現できる、対話的な居場所を豊中市内に開設することを通し、誰にとっても生きやすい地域づくりを推進する。

今の時代だから家族、職場のことを語れる場所、対話できるみんなの居場所が必要。それでも解決できないことはある。逃れる場所があることは重要である。貴団体が考える「対話」の概念を広げることで「対話の文化」づくりにも寄与できると思う。是非活動を続けてほしい。



15. NPO 法人 アンジュ

自主事業コース【災害に強い地域作り～障がい児者と支援者による避難生活の訓練～】

事業概要

大規模震災発生を想定し、地域の住民や障害者・児とその家族が安全に避難した後、避難所での生活や被災者自身がボランティアとして避難所で活動できるように研修等を行う。避難場所では事業所の職員や地域の自主防災の会の方達と協力し、1泊の宿泊訓練を行う。

スペシャルニーズのあるへの体験コーナーを設置され、災害に強い地域作りを体験によって感じ取る工夫がされている。当初小学校、消防署と連携できなかった



が、夢基金を上手く使って様々なネットワークを実現できた。ネットワークを広げる目標をもって活動できるのも夢基金の助成事業の利点である。地域の事業継続計画(BCP)になるよう期待したい。知識を得ることでみんなが動いてもらえる。数珠つなりの的になれば本当に防災に強い街作りに繋がっていく。

16. NPO 法人にこここエプロン

自主事業コース【「親と子の笑顔を守る」お手伝い】

事業概要

コロナ禍で孤立しがちな親が気軽に立ち寄り相談できる居場所、講座、相談室、産前産後サポートの家庭訪問、事業発展の為に支援員の養成と虐待の背景にある実情の周知の講演会を実施する。

1回の参加者は多くないが定期的を開催することは大事。いつでも駆け込める場所があるのは大切である。継続して繋がっていくことによって違うサポートができてきている。団体運営上、家庭訪問の依頼が増えており、支援者を増やすのが課題であり、上手く循環できることを期待している。ここまで成長してきた団体なので豊中の為に頑張っていたきたい。



17. 一般社団法人ソーシャルギルド

自主事業コース【公共施設を活用した、市民主体での「子ども服リユース」の事業化】

事業概要

公共施設での「子ども服」の回収・配布を自主事業として定着させることで、市民同士の資源循環を通じたコミュニケーションを活性化させるとともに、各施設の周知と子育て支援サービスとの接点増に貢献する。

保管および回収する場所、運搬が今後の課題であるが、協力者が出てきそうな気がする。これからの課題、方向性もしっかりしており、PDCA サイクルが回っている。人的ネットワークも持っていると思う。循環できる仕組みづくりが確実になるように頑張してほしい。



18. 特定非営利活動法人豊中市青少年野外活動協会

自主事業コース【「わっばるの森へ行こう！」-森の活用から考えるSDG'S-】

事業概要

- 森から得られる間伐材・風倒木を活用した成人向けクラフト講座の実施。
- 子どもたちのための森から得られる材料を用いたクラフトプログラムの開発。
- 持続可能な活動をめざすフォーラムの開催。

わっばるの森の指定管理業務を受託しており、稼働率を上げるためであれば公益性に乏しい。大人のクラフト講座は豊中市内の違う場所でやって、森を身近に感じさせる予定であったが、わっばるの森で行ったとのこと。少し工夫がほしい。野外活動協会がフォーラムに挑戦するのが初めてだったとは意外であった。主催事業としてチャレンジし、課題を克服して継続して事業を進めてほしい。



■全体を通しての講評

報告頂いた18事業のうち、10事業が令和5年度も「とよなか夢基金」の助成事業として継続して頂くようになっている。この助成事業を活用して成長して頂きたいという思いと、巣立って頂きたいという思いが交差している。とよなか夢基金を活用し頑張って頂きたい。

とよなか夢基金の一番の魅力は何でしょうか？活動するのにお金がいるから、それだけでなく、行政サポート、他の団体と知り合え、何かと得るものがある…みんな魅力のはず。積極的に活用してほしい。市民公益活動推進委員会でも、豊中の多様な活動を発掘することも助成事業の一つの役割ではないかという意見がある。そういう意味では皆さんの活動は非常に注目されている。豊中の市民活動が生み出す社会的効果の実態調査をするのも面白い。計画され活動され、問題点を分析され、次の活動に活かしていく。PDCAサイクルを意識していただきたい。それはこの基金を活用するにしても、自立化するにおいても必要不可欠な要素になる。そのうえで社会的価値を上げるためには連携、協働が必要である。同じ目的で何かをしようとするものが、互いを尊重し対等な形で連携する。そうすれば課題解決に向けた力がより発揮される。

先日ある社会課題解決に向けて行動したいという人の集まりがあった。企業に勤める人は資料を調べ、リサーチし、分析する癖がついているからそういうことは上手である。一方、社会問題の現場を知らないのでもどうしても課題解決案が抽象的になりやすい。反対に活動している人は、現場力があるので優れた社会性の高いアイデアを提案される。事業をしていく推進力、実行力は、ビジネススキルが高い人達と連携したほうが、実現性がより高まるのではないかと感じた。違う立場の人と連携することは自分が思っている問題解決の近道と

感じた。違うからこそ新しい価値が生まれる。応援したい、一緒にやりたいという人は必ずいる。勇気をもって前に進んでいってもらいたいと思う。まず楽しむことが大事。楽しんで、面白がって活動しましょう。但し決して自己満足で終わらせない。今後の皆さんの活動の発展を期待し、講評とさせていただきたい。

閉会 (16:30)